

教育課程編成委員会

令和3年度第2回委員会 議事録

1. 日時および場所

日時：令和4年2月19日(土) 15:00～17:00

場所：修成建設専門学校 129 教室

2. 出席者

学外委員

倉方俊輔、西濱浩次、鍵山昌信、田中義久、辻裕樹、井上久美、佐藤榮一、小松原学
中村裕輔、坂入喜代枝、市岡武、壺山和憲、小島章、富山毅、槇村吉高

学内委員

山下裕貴、堤下隆司、見邨佳朗、谷川博康、増田和浩、辰井菜緒、玉井香里、鍵谷啓太
釜友知與子、山本順也、野瀬孝男、上杉敬史

以上 27 名

3. 配布資料

資料 1-1：令和3年度第2回委員会議事次第

資料 1-2：出欠予定一覧表

4. 議事次第

(1)開会挨拶

堤下校長から開会挨拶に続き、教育課程編成委員会の概要説明・卒業展作品審査の謝辞があった。
山下理事長から 2021 年度、学園の現状報告があった。

(2)議事内容説明

1)令和3年度全学科課程修了報告

各学科長より令和3年度課程修了報告が行われた。

- 建築学科（昼・夜）・・・増田委員
- 建築 CG デザイン学科・・・玉井委員
- 空間デザイン学科・・・鍵谷委員
- 住環境リノベーション学科・・・山本委員
- 土木工学科、建設エンジニア学科・・・野瀬委員
- ガーデンデザイン学科・・・堤下委員
- 専科2級建築士科・・・釜友委員
- 専科1級建築士科・・・見邨委員

2)進路係よりの説明

進路係長上杉委員より本校の進路状況、就職指導、インターンシップなどの取り組みについての説明があった。

3)学科別討議

建築 A グループ

西濱浩次、鍵山昌信、井上久実、小池祐也、佐藤榮一、中村裕輔
山下裕貴、鍵谷啓太、玉井香里、釜友知與子

進行：鍵谷啓太

2030 年の社会について構想し、各委員の専門分野からご意見を頂く。

- ・ベトナム・ホーチミンでの建築ライブラリ建設に関しての情報提供があった。学びかたや働きかたが変わり、直接つながれない時代だからこそ、心を通わせる人材教育が必要。
- ・学生の卒業設計のキーワードに「〇〇を残す」という単語が出てくる。社会の志向が SDGs の解決を目指すなか、学校の授業でも触れられているか？
- ・ワークショップやブランディングなど、職種をまたいだ協働を授業に採り入れてはどうか。
- ・住宅やビルの再生など、サステナブルな建築の再生・活用を専門家として行なうためには、建築だけではない都市の見かた、人の巻き込みかたを教育する必要がある。
- ・今よりも更に情報をネットで得る時代になる。それだけに本質を見抜くちから、ファクトを見極める教育が必要。
- ・積算の世界では単なる拾い出しの積算はなくなり、BIM と結びついた PM/CM（プロジェクトマネジメント/建設マネジメント）が主流となる。

建築 B グループ

倉方俊輔、田中義久、辻裕樹、坂入喜代枝、市岡武
見邨佳朗、増田和浩、辰井菜緒、山本順也

進行：見邨佳朗

アジェンダの用紙配布、SDG s などのキーワードの内容説明と、委員の先生方への意見を聞きたいとの話があった。

キーワードあるいは他に所蔵している業界や企業で関心度が高いものはありますか。

また、変化に対応するためにどのような取り組みをしていますか。

- ・SDG s に関連して、電気自動車を導入した。
- ・廃材を活用して、シートやエコバックをつくった。
- ・会社内ではトータル的にライフサイクルコストを検討、イニシャルコストだけではなくランニングコストを考えた設備機器を導入するようにしている。
- ・良質な建物を高効率で永続させていく。

- ・ Z E B 認証を受けている。これは省エネルギーを実現しながら建築環境を良くしようとした適合判定となっている。
- ・ 入札において、金額だけではなく、持続性重視としている。
- ・ ドローンを使っている点検データの解析を行っている。遠隔地の調査を行うため、人材を自社で教育している。
- ・ ドローンなどの機械化があるが経験者とのバランスが必要である。例えばタイルの浮きを調べるのは赤外線によるものもあるが、専門家による打撃音の調査が必要な場合もある。経験者が減っているのは残念である。
- ・ 図面の 3 次元化、メタバース、バーチャルなどがよくつかわれる。プロが監修しているようなゲームがあり、ものを知っている人、経験している人が高い価値を生み出している時代だと思う。

2030 年において職業教育はどのように変化していると考えていますか。

そのために必要なことをお答えください。

- ・ 時代は元には戻らないので、技術の発展に伴って進化していくべきである。
- ・ 分業化が進む中で、それぞれのパートをトータルにコーディネートするコンダクターを教育していく必要がある。
- ・ 感じる力、考える力、判断する力がより必要となる。
- ・ 人が現場と機械をうまく結びつけていくことが重要である。
- ・ 職業教育はこれから必要になると感じる。次世代の職場に向かってスキルを高めていくことを期待している。

土木・ガーデン分野グループ

小松原学、壺山和憲、小島章、富山毅、榎村吉高

堤下隆司、谷川博康、野瀬孝男、上杉敬史

進行：堤下隆司

本校での SDGs、2030 年までの取り組みについて、討議内容についての説明。

2030 年の近未来に向けて、企業・業界・団体での関心、取り組みについて

- ・ IT 化が進んでいるが、企業や国、地方で差が大きくなっている。また対応できる人材が育っていないため、人材育成が必要。
- ・ 社員の年代バランスやコミュニケーション、繋がりに課題がある。
- ・ 個人能力の向上。また周りの環境に対応するための力も問われる。
- ・ 企業のニーズを踏まえた、教育が必要。またリカレント教育も更に進む。
- ・ さらに建設 DX が進み、建設の一連の流れが IT 化していく。
- ・ 伝統は残しつつ、新しいスタイルへの取り組みも必要。

2030 年はどんな世界になっている。

- ・ AI による仕事も増え、IT 化が進み、リモートやバーチャルでのやり取りも増え、3 次元へ移行。
- ・ グローバル化が進み、海外との連携が増える。また留学生の数が増加する。
- ・ リカレント教育も増え、学校と企業の共有が大事になる。
- ・ コミュニケーション力やリーダーシップがより問われ、マネジメント力も必要となる。

入社後の資格取得に向けて会社での取り組みについて

- ・ 資格手当や社内での勉強会、指導の実施。
- ・ 自分がやりたいこと、興味あることには取り組むが、それ以外は積極的でない。
- ・ 資格手当や試験に対するサポートなどを行っている。
- ・ 入社して 4～5 年で資格取得をして欲しい。
- ・ 資格取得することで、管理職などキャリアステップに繋がる。
- ・ 取得している資格が社内評価にも繋がる制度となっている。

(3) その他

(4) 次回開催日時等の決定

日 時：令和 4 年 10 月中旬ごろ

場 所：129 教室

内 容：令和 4 年度各学科カリキュラム実施報告

その他

以上

(記録・文責：上杉敬史 増田和浩)